

## 中間検査チェックシート (RC造・SRC造)

項目	検査内容	工事監理者側		建築主事等検査記録				
		確認日付		検査方法			良否	修正日・備考
		施工者	監理者	目視検査	計測検査	報告等		
共通	鉄筋の乱れ、踏み荒らし、波打ち							
	たるみの有無							
	梁、柱、壁、スラブの位置の確認							
	かぶり厚さの確認							
	鉄筋の材質の確認							
地中 ばり	梁主筋	寸法、径、本数						
		宙吊り筋の間隔、近接の確保						
	定着・継手	主筋の定着位置、長さ						
		重ね継ぎ手の位置、長さ						
	あばら筋	主筋の径、本数、間隔						
		第1あばら筋位置、小梁交差部のあばら筋 あばら筋フック形状、主筋との緊結						
	開口補強	開口位置、補強方法						
	補強筋	ハンチ付き梁のあばら筋補強						
		腹筋の径、本数、幅止め筋間隔						
	柱脚部	柱主筋等の径、本数、かぶり厚さ フーチングへののみこみ・定着						
その他	ガス圧接 継手	圧接技量資格者の確認						
		継手位置のずらし 形状						
		強度確認						
		試験体の抜き取り数と位置の確認						
	特殊鉄筋 継手	認定、評定工法の確認						
		継手位置						
	型枠 コンクリート	型枠及び支柱の締め付け、清掃状況						
基礎、柱、梁、の寸法 コンクリートの調合及び圧縮強度								
検査結果・ 工事全般の 考察								

## 鉄筋コンクリートの検査

鉄筋コンクリート工事の検査は通常の場合配筋検査が主体であり、現場検査でほとんどの部分を検査することができます。しかし、鉄筋コンクリート構造物の耐力の発揮は、コンクリートの打設とその品質管理に負うところが大きいものの限られた時間で行っており、工事監理者の目の届かない可能性が高いところに課題があります。

中間検査にあたっては少なくとも鉄筋量、配置、かぶり厚さ等を確認することとしますが、コンクリートの配合計画、打設計画について工事監理者又は現場管理者から聞き取ることにより、未然に施工不良を排除することも効果がある方策です。

### (1) 検査のポイント

構造計算により部材が決まることから、確認申請図書との照合が基本です。その中でも、特に注意して確認することは次の事項です。

1. 地盤、基礎：鉄筋コンクリート造は、重たい構造であることから、地盤耐力の検証、杭工事、基礎工事の施工状況について、申請書第4面の工事監理報告の内容を十分確認すると共に、必要に応じて、施工報告書、掘削土標本等により確認します。
2. 接合部：柱と基礎、地中ばり相互の接合部、スラブの定着部等については、鉄筋が輻輳し、欠陥が生じやすい部分ですので、鉄筋の定着長さや補強筋の施工状況に注意する必要があります。

### (2) 検査の具体的な重点項目

- ① 法令、告示に規定されている事項の確認
- ② 各部材の材質、サイズ、鉄筋径、本数、ピッチ等の確認
- ③ 鉄筋継ぎ手の種類、位置、長さ等の確認
- ④ 各部材接合部の定着方法及び定着長さの確認
- ⑤ 各部位の補強の状況確認
- ⑥ 特殊な工法や材料を使用した場合の仕様の確認

### (3) 報告書等について

支持地盤、杭等既施工部分や隠蔽部分の箇所、圧接継ぎ手の抜き取り引っ張り強度試験結果などは、中間検査申請書第4面の監理報告書で確認しますが、工事監理者に施工状況を聞き取ると共に、必要に応じて報告書の提出を求めて確認します。

### (4) 検査の方法

検査は、目視又はスケール等による測定での確認とし、スケールによる測定は、部位ごとに2から3ヵ所測った後共通する部分については目視で良いと考えます。これは、中間検査の中では、破壊検査等による適法性の確認をすることが技術的にも困難であり、原則として外部からの目視または寸法測定により適法性の確認を実施することで足りるものと考えられているからです。

合否の判定は、建築基準法関係規定に抵触しないことが基準となりますが、検査の現場では、確認図書の通りに施工されているかを確認することとなります。

なお、各部位の検査に先立って、工程全体の配筋状況を見渡し、鉄筋の乱れ、踏み荒らし、波打ち、たるみ等がなく整然と配筋されているかどうかを確認し、全体の施工状況を把握した上で検査に臨むようにします。

(5) 個別の検査項目について

(下記の解説は、原則的な内容を記載しており、詳細については右に記述の法令を参照のこと)

共通	鉄筋の乱れ、たるみ	目視	
	基礎、梁、柱の位置、	目視・設計書との確認	
	鉄筋の結束	目視	
	かぶり厚さ	基礎 $\geq 6\text{ cm}$	地中ばり・土地に接する柱 $\geq 4\text{ cm}$
			令 79
地中梁	梁主筋	寸法・径・本数・位置	設計図書との確認
		宙吊り筋の間隔、近接の確保	
	定着	定着長 $\geq 40d$ 若しくは柱主筋に溶接	令 73-3
		軽量骨材を使用する際は $50d$	JASS5-11,8
	継手	引っ張り力最小の位置	継手長 $\geq 40d$ (軽量骨材は $50d$ )
		それ以外の位置	継手長 $\geq 25d$ (軽量骨材は $30d$ )
			令 73-2
	あばら筋の間隔	間隔 $\geq$ 梁の丈の $3/4$	令 78
	第1あばら筋の位置	柱コンクリート面に設置	
	ハンチ付き梁の吊り上げ筋部分のあばら筋補強		
	開口補強	開口部の位置、補強方法の確認	
柱脚部	形式の確認	リブプレート等	設計書との確認
	主筋の径・本数	XY軸の確認	令 77
		フーチングへののみこみ・定着	
	かぶり厚さ	土地と接する柱は $4\text{ cm}$ 以上	令 79
その他			
	ガス圧接溶接継ぎ手	監理報告書で対応	JASS5-11,10
		技能資格者の確認	
		継ぎ手位置ずらし	$40\text{ cm}$ 以上
		形状	
		膨らみ $\geq 1.4d$	長さ $\geq 1.1d$
		ずれ $\leq 1/4$	軸の偏心 $\leq 1/5$
		強度確認	
		試験実施状況	告 12-1463
型枠			JASS5-12
	型枠及び支柱の締め付け・清掃状況の確認		
	基礎・柱・梁寸法の確認		
	コンクリートの配合、強度	監理報告による	